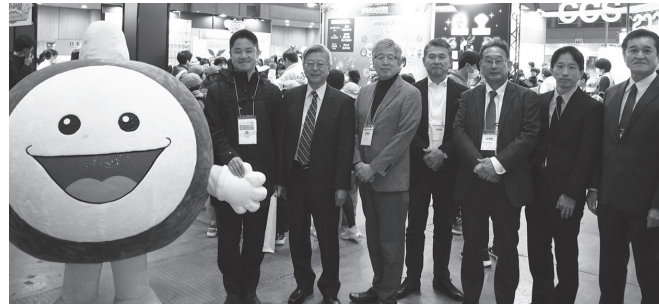


「エコプロ」で水循環ブース

GKPなど 次世代に上下水道をPR



視察に訪れた（左から）若公調整官と岡久理事長、協賛企業幹部ら



管清工業ブース



東亜グラウト工業ブース

道事業調整官のほか、協賛企業の幹部らが視察に訪れた。岡久理事長は「水をめぐるというテーマがわかりやすく非常によくできている。また、他のBtoBの要素が強い展示会とは異なり、小中学生をはじめとした子どもたちにも上下水道をアピールできる機会が希少。ぜひ続けていきたい」とコメント。若公調整官は「初めて来場が叶い、お子さんや学生の多さに驚いた。次世代に上下水道をPRできることにGKPとしても展示をし続ける価値があると感じた。企業や団体からお越しいただいている説明員の方々も一生懸命説明をしているのが印象に残った」と感心した。

また、管清工業と東亜グラウト工業も自社ブースを出展。管清工業は「みんなも知らない下水道の世界」をテーマに、下水道の出前授業や、厚木の杜環境リサーチセンター、東ティモールで「国づくり・人づくり・水づくり」プロジェクトを行うCWPグループとの共同事業の紹介を行った。下水道管路を模した「下水道探検クイズ」には多くの子どもたちが詰めかけた。

東亜グラウト工業は、「あたりまえのウラ側で大発見！ まちをささえるすこいひみつをみつkey」と題し、小学校の授業さながらに「あたりまえ」となっているインフラを陰で支える自社の技術を紹介した。

国内最大級の環境展示会「エコプロ」が10～12日に東京ビッグサイトで開催され、GKP（下水道広報プラットフォーム）や日本下水道協会をはじめとした「21世紀の下水道を考える会」協議会、協賛企業からなる「水をめぐる大冒険実行委員会」は、「まもれ！みんなの上下水道」をテーマに、水循環を土台に上下水道の大切さを訴えるブースを出展した。

水をめぐる大冒険では、自然環境の減少や管路の老朽化、人手不足といった諸問題を「水循環のピンチ」と表現。森林や街中、浄水場と処理場

といった各フィールドで、上下水道の管路や微生物などをキャラクター化した「下水道ゴン」「ビセイブツ」といった「ガーディアンズ」が、老朽化や汚水、浸水といった様々な「モンスターズ」から水循環を守っていく。

初日には岡久宏史・下水協理事長やGKP企画運営委員長を務める若公崇敏・国土交通省上下水